

サポートセンター交流事業 講座

「仕事と介護の両立～必ず考える時がくる家族の介護～」開催報告

2015年12月16日、NPO法人やすらぎ理事長の和賀井哲代氏をお迎えして、「仕事と介護の両立～必ず考える時がくる家族の介護～」と題する講座を3号館606教室で開催し、学生・教職員23名の参加者が耳を傾けました。

冒頭、和賀井氏は「届いた沢山のご質問には講座内でお返事や回答をしていきます、質問内容によっては特定の企業名等は出せないの、公的な資料での回答とさせていただきますこととなります、その他、聞きたいことが出てまいりましたら、なんでも聞いてください」と、参加者からの事前質問を反映しながら講座を進めていくことと、参加者の疑問や質問にはすべて答えていくという姿勢を示されました。

まず、在宅介護の変遷として措置制度の中での関係制度や法の歴史が示され、重要性と問題点が挙げられました。次に、日本における介護費用と保険料の推移や介護保険制度の変化、現在の介護保険制度の問題点と事例が紹介されました。育児とは違い、必ず家族の介護というのは誰も経験するものであること、真面目な独身男性の特徴として、親の介護の為に収入がなくなるということを考えずに退職してしまい、結果として親子ともに貧困に苦しむことになる傾向が多いこと、女性は「夫はその家の大黒柱で仕事をし、介護は妻がするもの」という日本における社会常識や家族内の意識のもと退職してしまう傾向にあるという、性別にかかわらず介護の為に自分のキャリアをすててしまうという日本の現状が明らかとなりました。そして和賀井氏は「介護の為に離職してはならない」と強く訴えられました。「介護は育児と違い終わりが見えない、家族のだれかが仕事を辞めるのではなく働きながら介護することが大切、周りの人にきちんと話をして、すべてのサービスを使い、働きながら介護を続けていくことを考えるべきです、介護休暇は長い介護を続けるためにどうやっていくかを考える期間です」と介護休暇と育児休暇の違いを説明されました。「企業や組織にとって介護で優秀な人材が去ることは損失となるので、個人的な話で悪いと思わず、きちんと会社にも状況を伝えて使える制度は使うべき」と自分一人で抱え込まず、まわりに頼る大切さを説かれました。介護現場における沢山の事例を挙げられ、「介護される人だけでなく、介護する人の心に寄り添うことも必要です」と仕事と介護の両立に必要な考え方を、いろいろな角度から伝えられた講義となりました。質疑応答では、個人的な介護についての質問から国の政策や日本社会の仕組みづくりについてまで幅広く和賀井氏



に投げかけられ、終了時間まで一つ一つ丁寧にお答えになりました。

参加者からは「現在介護をしており、自分がやってはいけないことをやっていたと気付いた」「具体的な事例を交えて話していただきよかった」という個人的な問題の解決から、「専門的な内容で勉強になった」「現場の視点からみた介護政策についての意見

が聞けてとてもよかった」という勉強や研究の視点からの感想も寄せられました。「多くの人に聞いてもらいたいくらい素晴らしい内容だった」という言葉も届き、仕事と介護の両立について和賀井氏とともに、参加者一人一人がそれぞれ自分で考える大切な時間となる講座となりました。

以上